

平成 16 年 10 月 8 日

ガイドラインワーキンググループ
委員 各位

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
主任研究者 高田忠敬

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
第 8 回 ワーキンググループ会議のご案内

謹啓

平素より当研究班の活動におきましては大変お世話になっております。
さて、標記につきまして、下記の通り開催致しますので、御出席の程宜しくお願い致します。
謹白

記

日時：平成 16 年 11 月 25 日 13：00-17：00

会場：東京八重洲ホール 会議室（JR 東京駅八重洲中央口より徒歩約 3 分）

〒103-0027

東京都中央区日本橋 3-4-13

TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111

<http://www.yaesuhall.co.jp/>

議題：重症度判定基準の検討

謝金：支給なし。

交通費：支給。

（基本的に全員参加の予定です。欠席される先生は、名古屋大 真弓先生までご連絡ください。）

以上

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
(主任研究者 高田忠敬)
第8回ワーキンググループ会議
議事録

日時：平成16年11月25日 13:00-18:00

場所：東京八重洲ホール 4階 411会議室

出席者：高田忠敬、阿部展次、伊東昌広、上野博一、海野倫明、遠藤 格、木村康利、桐山勢生、酒井達也、須藤幸一、関本美穂、堂脇昌一、霧口利夫、畠 二郎、広田昌彦、三浦文彦、山下裕一、真弓俊彦

欠席者：平田公一、大田岳洋、小倉行雄、田中 篤、柳野正人、名郷直樹、横室茂樹、吉田雅博

議事

1. 真弓委員によって開会が宣せられた。
2. 高田班長よりガイドライン作成に当たっての要望、注意点が述べられた。
 - ・ 診断基準、重症度判定、搬送基準を明確にする。
 - ・ 治療法選択の適応を明確にする。
 - ・ 日本腹部救急医学会評議員に対してガイドライン案についてのアンケートを実施してほしい。
 - ・ 実際に利用されるガイドラインにしてほしい。
3. 山下委員より日本腹部救急医学会評議員に対して行った急性胆嚢炎の治療法についてのアンケート結果についての発表があった。急性胆嚢炎に対しては8割の施設で腹腔鏡下胆嚢摘出術が選択されている実態が明らかになった。
4. 引き続きガイドラインについて検討した。
 - ・ 治療の章の最初に治療総論を加える。
 - ・ 急性胆管炎の重症度判定では、重症、中等症、軽症の3段階に分類する。
 - ・ 急性胆管炎の重症度判定項目に意識障害を加える。
 - ・ 急性胆管炎の重症度に応じて搬送基準を設定。
 - ・ 急性胆嚢炎の重症度判定では、重症、軽症の2段階に分類する。
 - ・ 急性胆嚢炎の重症度に応じて搬送基準を設定。

以上

平成 16 年 12 月 1 日

ガイドラインワーキンググループ
委員 各位

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
主任研究者 高田忠敬

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
第 9 回 ワーキンググループ会議のご案内

謹啓

平素より当研究班の活動におきましては大変お世話になっております。
さて、標記につきまして、下記の通り開催致しますので、御出席の程宜しくお願い致します。

謹白

記

日時：平成 16 年 12 月 23 日 10：00-16：00

会場：東京八重洲ホール 会議室（JR 東京駅八重洲中央口より徒歩約 3 分）

〒103-0027

東京都中央区日本橋 3-4-13

TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111

<http://www.yaesuhall.co.jp/>

議題：診断基準、重症度判定、搬送基準を明確に

謝金：支給なし。

交通費：支給。

昼食費：弁当支給。

以上

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
(主任研究者 高田忠敬)
第9回ワーキンググループ会議
議事録

日時：平成16年12月23日 10:00-16:00

場所：東京八重洲ホール 4階 411会議室

出席者：高田忠敬、平田公一、伊東昌広、遠藤 格、太田岳洋、木村康利、桐山勢生、酒井達也、須藤幸一、堂脇昌一、露口利夫、柳野正人、広田昌彦、三浦文彦、山下裕一、横室茂樹、真弓俊彦

欠席者：阿部展次、上野博一、海野倫明、小倉行雄、関本美穂、田中 篤、名郷直樹、畠 二郎、吉田雅博

議事

5. 真弓委員によって開会が宣せられた。
6. 高田班長よりガイドライン作成に当たっての要望、注意点が述べられた。
 - ・ 診断基準、重症度判定、搬送基準を明確にする。
 - ・ このガイドラインでは、急性胆嚢炎に対しては欧米では一般化している早期の腹腔鏡下胆嚢摘出術を推奨する方針である。
 - ・ ガイドラインを英文化してコンセンサスを得て、国際的に認められるものにしたい。
 - ・ 来年胆道炎の国際シンポジウムを開催するので、研究協力者の協力を得たい。
7. ガイドライン案について検討が加えられた。
 - ・ 治療の章を、治療法別に急性胆管炎と急性胆嚢炎について述べるのではなく、まず、急性胆管炎と急性胆嚢炎に分けてから、各治療法について述べる方法に改める。
 - ・ 急性胆嚢炎に対する早期手術と待機手術の定義を明確化し、早期手術を推奨する論調にする。
8. 昼食
9. 引き続きガイドライン案について検討した。
 - ・ 急性胆管炎の初期治療としての絶食が必要であることを確認。
 - ・ 手術的胆道ドレナージの掲載の是非について検討し、本邦での現状を鑑み、掲載することとした。
 - ・ 特殊な胆管炎、肝内胆管炎について。

以上

平成 16 年 12 月 28 日

ガイドラインワーキンググループ
委員 各位

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
主任研究者 高田忠敬

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
第 10 回 ワーキンググループ会議のご案内

謹啓

平素より当研究班の活動におきましては大変お世話になっております。
さて、標記につきまして、下記の通り開催致しますので、御出席の程宜しくお願い致します。
謹白

記

日時：平成 17 年 1 月 7 日 10：00-17：00
（13：00～13：30 Minds 事業よりガイドラインインターネット化の説明会あり）
会場：東京八重洲ホール 411 会議室（JR 東京駅八重洲中央口より徒歩約 3 分）
〒103-0027
東京都中央区日本橋 3-4-13
TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111
<http://www.yaesuhall.co.jp/>
議題：特殊な胆道炎の項目の検討
謝金：支給（Minds 事業より）。
交通費：支給（Minds 事業、班会議より）。
昼食費：弁当支給（Minds 事業より）。

以上

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
(主任研究者 高田忠敬)
第10回ワーキンググループ会議 議事録

日時：平成17年1月7日 10:00-17:00

場所：東京八重洲ホール 4階 411会議室

出席者：平田公一、伊東昌広、遠藤 格、木村康利、桐山勢生、須藤幸一、堂脇昌一、柳野正人、広田昌彦、三浦文彦、横室茂樹、海野倫明、小倉行雄、関本美穂、田中 篤、名郷直樹、畠 二郎、上野博一、吉田雅博、真弓俊彦

欠席者：山下裕一、露口利夫、酒井達也、太田岳洋、阿部展次

議事

10:00 吉田の事務局報告より会議が報告された。高田教授指摘の内容の細かな訂正が報告された。定義と分類について改訂作業開始

10:24

小児胆道炎の検討：

Q1 小児外科学会のアンケート調査結果を盛り込む

アンケート調査結果は論文にすること

Q2 診断基準はどうするか？

明らかな診断基準の提示は控え、小児外科学会にて検討の後に論文化し、掲載する。

Q3 搬送基準：化学療法学会のガイドラインを再検討すること

初期治療：絶飲食；多くは絶飲食が原則であるが、とする。

抗菌薬をは、可能であれば感受性を検索しつつ、という文章と耐性菌の出現に注意しつつという文章を挿入する

11:07

高齢者の検討：高齢者の基準はあいまいで論文によってまちまちであることを“何歳以上の”高齢者では、と入れる。

Q1 “中等症以上の”を挿入する。

文末に重症化しやすいなどの文章追加

穿孔の定義：マクロ、ミクロ、腹腔内の胆汁の存在があればよしとするか？

Q2 壊疽性：日本語

Q3 手術不能と診断された、を追加する

胆道ドレナージの文献9のRCTには高齢者が何名含まれるのか？

Q4 緊急手術の死亡率が高いという論文を掲載する。“何歳以上の”高齢者では、と入れる。

引用論文を表記する。

緊急、早期、待機の死亡率が表記してある論文を表記する。全身検索をするべきであるという根拠となる論文を掲載する。

Q5 “熟達した”という文章をできればという文章にかえる

11:51

悪性疾患併存の胆管炎に対するドレナージ

Q1;悪性胆道疾患に伴う急性胆道炎の治療方針は？とし、概略を提示、詳細に関しては

阿部先生の最新版と内容の統一をしていただく；内容が重複するのであっちに移動する。また、胆嚢に関してはp99のQ2をドレナージの項へ移動する

12:08

Oriental cholangitis

診断：シェーマを提示。治療：注意事項を提示；安易にESTをしない。感染を助長する。

Q2 推奨度AからBへ。文献挿入および推奨度の表記。推奨度Dの削除

12:24

Segmental cholangitis 推奨度はAでいい。

休憩 12:30 から 13:00

13:00

Minds 事業からの説明会（急性膵炎のガイドラインについて）

14:00

急性胆管炎と PSC。カッコ内の文章を改訂する。文献 18 は 2004 年の最新版に変える。

C. 治療：文献を付加すること。急性胆管炎と PBC。括弧内の改変

14:00

急性胆管炎の抗菌薬治療について。囲みの訂正および加筆訂正。急性胆嚢炎の細菌培養結果の挿入。抗菌薬使用の重症度別の考え方

16:00

鑑別診断の検討

16:10

定義：無石胆のう炎、XGC。無石胆のう炎の診断について：診断能が低い理由

p 15 にある無石胆のう炎の部分の後半に持ってくることにする。（囲みは保留とする）

事務局連絡

1. 国際シンポジウムについて

2006. 1.8~9。場所：帝京大学

出席：欧米より数人、ワーキング委員全員出席

2. 典型的な画像を収集する

3. 評価委員を依頼した。

千葉大学 税所教授、新潟 清水先生、三重 川原田先生、産業医大 岡本先生

4. 来年度は出版委員を中心に行う

5. 本年 3 月の腹部救急医学会の抄録を出していただく

次回の開催は 2004 年 2 月 18 日に開催することとする。

17:00 閉会

平成 17 年 1 月 18 日

ガイドラインワーキンググループ委員 各位

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
主任研究者 高田忠敬

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
第 11 回 ワーキンググループ会議のご案内

謹啓

平素より当研究班の活動におきましては大変お世話になっております。

さて、標記につきまして、下記の通り開催致しますので、御出席の程宜しくお願い致します。

謹白

記

日時：平成 17 年 2 月 18 日 11:00-17:00

会場：東京八重洲ホール 301 会議室（JR 東京駅八重洲中央口より徒歩約 3 分）

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-4-13

TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111

<http://www.yaesuhall.co.jp/>

議題：1) ガイドライン案の内容吟味と全体の整合性の検討

2) 症例提示（胆嚢炎、胆管炎の軽症、中等症、重症例をお持ちください）

謝金：支給なし。

交通費：支給。

以上

出欠、および当日ご提示いただける症例（例：“胆管炎重症 1 例、中等症 1 例”又は“各 1 例ずつ”など）をメールでご連絡ください。

mtoshi@med.nagoya-u.ac.jp; yoshidam@med.teikyo-u.ac.jp まで

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
第11回 ワーキンググループ会議 議事録

日時：平成17年2月18日 11:00-18:00

会場：東京八重洲ホール 301会議室（JR東京駅八重洲中央口より徒歩約3分）

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-4-13

TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111

<http://www.yaesuhall.co.jp/>

議題：1) ガイドライン案の内容吟味と全体の整合性の検討

2) 症例提示

出席者：高田忠敬、炭山嘉伸、桐山勢生、須藤幸一、堂脇昌一、横室茂樹、

露口利夫、広田昌彦、伊東昌広、畠 二郎、三浦文彦、木村康利、山下裕一、太田岳洋、海野倫明、小倉行雄、関本美穂、遠藤 格、真弓俊彦、吉田雅博

欠席者：平田公一、酒井達也、阿部展次、田中 篤、名郷直樹、柳野正人、上野博一

議事

3. 吉田事務局幹事より本年度の業績提出および研究費分配、国際シンポジウムについての資料について説明。

4. 炭山教授（東邦大学第3外科）の会議参加の紹介。

5. 真弓委員長の司会により、内容の検討開始。

4. 無石胆嚢炎に関する討議

内容の配置と言葉の訂正：有石胆嚢炎、無石胆嚢炎に統一

5. 炭山教授のコメント

抗菌薬についてのコメント：短期間に十分な濃度を維持する工夫が必要。

閉塞状態でも、シプロキサシンも効果あるという報告はあるが、やはりドレナージが第一優先であり、抗菌薬のみにこだわってはいけない。

6. 術後胆道炎

エビデンスレベルを治療ではなく、予後の表から再評価していただく：堂脇先生担当。堂脇先生の最新版を入れる。

術後胆道炎では診断が遅れると致死的になることを強調すること。

術式ごとに胆道炎発生率が異なることを客観的に記載する。

胃切除後の胆管炎について記載

Sump syndrome について Gastroenterology Books を引く

側側吻合でのみ起こり、端側吻合では起こらない。

Bの記載方法の工夫

7. 高田教授より国際シンポジウムのアナウンス

不明確な点の検討（診断基準、重症度診断、搬送基準）

アンサーパッド使用。治療法の選択方法とそれぞれの理由

英語版作成委員会を結成し、英文版作成を目指す。

このような治療を行えば、最低限の治療法は可能である。という基準を作成する。出版誌は、ワーキング全員が、co-authorになる。日本語版を作成する場合に英文版を考慮しつつ作成してゆく。

日本語版：先に出版される。

英文版：日本語版をもとに、国際シンポの内容をふまえて内容を作成してゆく。ぜひ協力いただきたい。

例：UICCの癌の判定基準、膵癌判定基準の表

8. 昼食

9. 腹部救急終了後、胆道炎出版委員会を組織することとする。

10. 手術治療について内容の吟味

Q1 1) Soupault手術について原本にあたる。

2) 推奨文は入れないこととする

Q2 は二つに分ける。

・手術的ドレナージの適応、手術治療が施行される場合に分ける。

一期的な手術の選択もあるが、重症例では死亡率は内視鏡的治療に比し高い。

11. 診断基準について再確認と加筆訂正
(Sonographic) Murphy 徴候の位置、考え方：胆嚢観察下でのプローブによる圧痛
12. 症例提示
13. 症例、主訴、胆道炎と診断、重症度は、、、治療は、、、とする。
広田先生、木村先生担当でお願いします。
畠先生：軸捻転症例、複数の sonolucent layer：模式図を入れてもらう。
桐山先生：治療後に一時的に状態は悪化するものや、状態がしばらく変わらないものがある。治療をした後に劇的によくなる場合ばかりではないことを強調してほしい。
14. 次回、腹部救急医学会前日に班会議総会、2日目にシンポジウムが開かれる。
15. 班会議総会までに内容を加筆訂正することとし、閉会。

International Consensus Meeting for the management of Acute Cholecystitis, Cholangitis

Convenor: Tadahiro Takada, M.D., F.A.C.S.

Chief of the Clinical Research Group to create and promote clinical practice guidelines for management of acute cholangitis and cholecystitis granted by the Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan

Date: January 7, 8, 2006

Venue: Main Hall, Teikyo University Hospital, Tokyo, Japan

Purpose and Discussion Contents:

Creation a Consensus Definition regarding mainly Acute Cholecystitis and Cholangitis of

- (1) Diagnostic Criteria,
- (2) Determination of Degree of Severity,
- (3) Criterion of Transportation to High-Volume Hospital,
- (4) Choice Criterion of Medical Treatment,
- (5) Choice of antibiotics
- (6) Timing of Drainage, Surgical Intervention, Others,
- (7) Others

We will exchange views and comments on the planned guideline (in both Japanese version and English version) via the Internet in advance. And then, having a discussion at the meeting in person and also statistically clarify the all views and comments using answer pats.

Professor emeritus at Mie University will act as the Chairman at the meeting, that means we will be able to have an impartial decision. After finished the meeting, the completed guideline English version will be published. Although the meeting will be conducted without such long break for these 2 days, I hope there will be full participation of as many doctors as possible in this meeting and wise views and comments from them from around the world.

Co-Sponsors: Japanese Society for Abdominal Emergency Medicine

Japan Biliary Association

Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery

Secretary: Mihoko Ueotani (mihou@med.teikyo-u.ac.jp)

Department of surgery, Teikyo University School of Medicine

2-11-1 Kaga Itabashi-Ku Tokyo, Japan 〒173-8605

Tel 81-3-3964-1211 (ext 1424), Fax 81-3-3961-6944

Panelists:

A. Invite Gasts (Oversea):

Henry Pitt (USA)
Joseph S Solomkson (USA)
Steven Strasberg (USA)
James Toouli (Australia)
Christos Dervenis (Greece)
Avinash Supe (India)
PC Bornman (Cape Town)
Chi-Leung Liu (Hong Kong)
Edward Cheuck-Seen Lai (Hong Kong)
Joseph W.Y. LAU (Hong Kong)
Myung-Hwan Kim (Korea)
Chen-Guo Ker (Taiwan)
Miin-Fu Chen (Taiwan)
Serafin Hilvano, (Philippines)
Kui Hin Liau (Singapore)
Harjit Singh (Malaysia),
John A. Windsor (New Zealand)

B. Japanese Panelists: 50 doctors

Members of the Clinical Research Group to create and promote clinical practice guidelines for management of acute cholangitis and cholecystitis granted by the Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan

C. Other Participants: 50 doctors (expected)

Tentative Schedule

● Welcome reception & Party

Date: 6th January 2006 :

Time: TBA

● Discussion with all of the participants using answer pats.

Date: 7th January 2006 :

Time: TBA

<International consensus meeting for acute cholangitis and cholecystitis>

8:00~9:00 : Morning seminar

9:00~11:30 : Diagnosis, criteria and assessment of severity

12:00~12:30 : Lunch on seminar

13:00~15:00 : Basic therapeutic strategy and drug therapy

15:30~17:30 : Drainage and surgical operation

19:00~ : Dinner party

● General overview

Date: 8th January 2006 :

Time: TBA

8:00~ 9:00 : Morning seminar

9:00~12:00 : The previous day's conclusions and Q&A

12:00~ 12:30 : Lunch on seminar

13:00~14:00 : President's overview

厚生労働科学研究研究費補助金
医療技術評価総合研究事業

急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究
平成 15 年度 総括・分担研究報告書

平成 17 年 3 月 31 日 印刷発行

発行者 厚生労働科学研究 医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
主任研究者 高田忠敬
〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1
帝京大学医学部外科
TEL:(03) 3964-1228 FAX:(03) 3962-2128

印刷所 (有) 下田タイプ印刷
東京都豊島区東池袋 1-44-8
TEL:(03) 3982 - 1708